


大隈家収花文書

リ 5
5880
4





 藤原文書翰

 十八通

 紙數七十二枚

六月廿四日
 我公前

(大隈重信侯傳編纂會)

昭和十五年五月三日
 市島謙吉氏贈

門
0887
券
1

信文



伊藤博文書翰

十八通

紙數七十二枚

七月廿四日
我合南

(大隈重信侯傳圖書會)

(大隈重信侯傳圖書會)

總數九十二枚

十八冊

毛澤東文書集



卷之九

九月廿五日

(大隈重信侯傳編纂會)

(大隈重信侯傳編纂會)

毛澤東文書集
卷之九
九月廿五日
總數九十二枚
十八冊
毛澤東文書集

毛澤東文書集

我輩之志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、

我輩之志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、
我、輩、之、志、在、世界、和平、之、實現、也、
此、其、所以、為、我、輩、之、志、也、

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters.

(大隈重信侯爵書)

上は 謹平は 遠くより、謹懐候旨百拜

五月念五日 五字

民部大臣 閣下
博文
侍史

伊藤博文

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a personal note. The text is written in a dense, flowing script across approximately 12 lines.

(大隈重信侯傳稿集)

と宜敷。とのり。おす。なる。事。合。は。る。お。母。誠。子。は。固。く。消。用。し。隨。考。し。お。す。だ。ん。と。し。と。但。法。鑑。し。高。き。以。て。大。隈。と。し。江。備。系。考。も。お。母。に。尤。も。上。海。新。舟。に。細。貨。輸。の。も。ち。之。事。に。此。の。虚。傳。少。額。と。事。行。の。是。を。許。し。建。白。却。下。し。始。末。外。中。に。言。承。を。た。へ。す。し。オ。ン。ニ。致。り。せ。ネ。う。ん。イ。ン。ト。し。ス。ト。之。に。入。り。し。オ。ン。に。回。答。を。要。法。又。お。か。さ。さ。さ。し。普。通。し。事。を。し。に。元。老。儀。在。し。内。閣。書。記。古。に。何。如。し。明。ふ。事。即。ち。吾。等。を。ふ。と。疑。惑。し。法。は。事。行。海。外。事。理。未。生。し。杞。石。受。は。若。如。や。お。母。の。法。真。し。子。は。地。に。確

(大隈重信侯傳稿集)

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or document. The characters are in a cursive style.

(大隈重信侯傳書)

(大隈重信侯傳書)

Handwritten characters at the top of the page, possibly a date or title.

Main body of handwritten text in vertical columns, enclosed in a rectangular border. The text is dense and written in a cursive style.

Handwritten text in the left margin, possibly a note or signature.

平定縣志
卷之六

過而心飛去姐南地之予也... 其後更之... 大村... 生中... 河... 先般...

大興軍信侯傳編纂
卷之六

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or document. The text is written in a cursive style.

(大隈重信侯傳稿集)

進了郎音面也

Handwritten text in vertical columns, enclosed in a rectangular border. The text is written in a cursive style.

大隈氏中大輔殿

伊藤博文

伊藤信文様了

所由古淡ゆりて其之勢おるに平金文を貸
流の中 存者再考之上は法本洞向云、採中
少事必竟授産地ゆりて其趣向を念置りて
存成夫々其之志を徹し採取の配意を以て為
偏倚せりし採取し、之は法本洞向云、採中
金十字族を以て採取し、其趣向を念置りて
其集りて採取し、其趣向を念置りて採取し、
的りて採取し、其趣向を念置りて採取し、
其趣向を念置りて採取し、其趣向を念置りて採取し、

(大隈重信侯傳編纂會)

大隈侯の書翰

大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰
大隈侯の書翰

(大隈重信侯傳編纂會)

此書之旨意也 故其旨意皆在 此也 凡我同胞 宜各體此 旨意 庶幾 人心 悅誠 服 而 國 家 之 治 亦 隨 之 而 成 矣 此 書 之 旨 意 也 故 其 旨 意 皆 在 此 也 凡 我 同 胞 宜 各 體 此 旨 意 庶 幾 人 心 悅 誠 服 而 國 家 之 治 亦 隨 之 而 成 矣

此書之旨意也 故其旨意皆在 此也 凡我同胞 宜各體此 旨意 庶幾 人心 悅誠 服 而 國 家 之 治 亦 隨 之 而 成 矣 此 書 之 旨 意 也 故 其 旨 意 皆 在 此 也 凡 我 同 胞 宜 各 體 此 旨 意 庶 幾 人 心 悅 誠 服 而 國 家 之 治 亦 隨 之 而 成 矣

一ノ一ノ一

坊又

Handwritten text in a cursive style, possibly a letter or a document, written on a page with horizontal lines. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive style, possibly a letter or a document, written on a page with horizontal lines. The text is dense and fills most of the page.

伊藤博文様

伊藤博文様了

老翁ノ口實考ニ不子方以陸軍部
今午存一の條之ハ氣果之のハ出子おハハ
ノ、新河系熟考ノ交、留居ノ中、之、今、日、
在、陸、分、至、苗、ノ、端、ナル、之、ヲ、進、退、止、ル、リ、ヲ、存
ハ、政、租、一、系、ノ、交、ノ、苗、ヲ、存、ル、ス、シ、テ、幸、時、存、民
ハ、故、理、無、傳、ノ、存、ト、云、フ、ハ、先、分、内、國、ニ、お、め、ト
ル、了、解、ノ、上、耳、也、也、必、疑、考、ノ、念、出、止、ル、事、此、の
政、租、一、系、通、折、ノ、旨、也、且、お、令、ラ、進、退、ス、ル、事、也、
政、租、一、系、未、ハ、お、令、ノ、立、降、ヲ、撲、ク、カ、久、理、一、見、止、リ
採、用、ス、ル、カ、又、ハ、他、ニ、お、令、者、相、之、カ、ト、云、ニ、至、テ、ハ、未、

(大隈重信侯爵編纂會)

Blank lined page with faint handwriting at the top.

大隈心友

其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...
 其世也... 其心也...

(大隈重信侯傳稿集卷)

老愚、は賢者より不足を以て、
 重く矢之に、
 一、
 不、
 不、

九、

大隈心友		書文													

寛政

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the Japanese text on the opposite page. The text is written vertically and appears to be a summary or a specific detail related to the main text.

大銀行
Handwritten text inside a rectangular box, possibly indicating a title or a specific section within the document.

(大隈電信候傳書)

彼 李鴻章之對話、大要

我 新銀貨鑄造、俄所分何五色に在んや

彼 過日米國より雇入レリハ礦山師、ハ一ケ氏未ダ着

我 有、近々同國副領事、ハヤヤ氏同伴、順徳府

ニ赴カシメ、實地ニ就キ、試驗ノ積、其上ノ事ナリ

我 貴國銀地金、甚多シ、銀山、有無ニ拘ラス、目下

民間、ニ私造スル所ノ銀塊、ヲ以テ、新貨ヲ製

ス、凡モ、我造幣局ニ、感陪スルノ、農城ヲ要シ、利ニ益モ

亦大ナルベシ、然レモ、貨幣ノ私造ヲ禁スルノ、令施シ得

寛治
成子
了

我、其ノ意ナシ
北京天津間、動静無常ニ付、其ノ通信ノ
途、断絶セラルルコトナリ
夫レ、其ノ故、動静無常ニ付、其ノ通信ノ
途、断絶セラルルコトナリ
其ノ故、動静無常ニ付、其ノ通信ノ
途、断絶セラルルコトナリ
其ノ故、動静無常ニ付、其ノ通信ノ
途、断絶セラルルコトナリ
其ノ故、動静無常ニ付、其ノ通信ノ
途、断絶セラルルコトナリ
其ノ故、動静無常ニ付、其ノ通信ノ
途、断絶セラルルコトナリ

我 大正ノ小村ノ落ト過キス北京ハ大都ナリ北京ヘノ電線ノ
便益大正ニ設クルモノニ比スレハ優ルヲ數言シテ中堂
ニ其意分ニ莫キトハ何カ故アリテ出ルナリト之ヲ聞ク
我 其ノ許スヤ否ヤハ一度建設マシテ後、其ノ意ノ違ハ
彼 別ニ子細述ガセシハ北京天津ノ間ニ電線ヲ架設セハ
人民祖愚ノ輩之レハ切斷シテ底行セズ依テ各衙
門ニ申具シ其許可ヲ得んモノ所謂汚シテ効ナキナリ
我 我國ニ於テ祖愚ノ輩電線ヲ切斷シケルノ屢アリ然
レ比今日ハ皆其便利ヲ知り切斷ノ患ヒナシ
彼 半國中國ニ比スレハ場土小百事舉テ安キ所アリ

此 日本は世界一の銅産地であるが、銅の輸出は年々減少して、
 此 銅の需要はますます増える。銅は工業の基礎である。銅の不足は
 此 日本に大きな影響を及ぼす。銅の生産を増やして、輸出を増やさ
 此 なければならない。銅の生産を増やすには、銅の採掘を増や
 此 しなければならない。銅の採掘を増やすには、銅の採掘技術を
 此 向上させる必要がある。銅の採掘技術を向上させるには、銅の採
 此 掘技術者を養成しなければならない。銅の採掘技術者を養成する
 此 には、銅の採掘技術者を養成する必要がある。銅の採掘技術者を
 此 養成するには、銅の採掘技術者を養成する必要がある。銅の採掘
 此 技術者を養成するには、銅の採掘技術者を養成する必要がある。銅
 此 の採掘技術者を養成するには、銅の採掘技術者を養成する必要がある。

我 運りしもの、銅我國に輸入し、高不引何故に商賈店に
 我 用うカナルヤ、常用増殖スレハ其強アリ、然レハ我國に尤
 我 取引せし加に、此國商賈、取引キト大概骨董賣買
 之有様ニテ他貨物亦然ノ價值ニ由ラレハ所アリ我國ノ
 彼 巨高之レニ苦シムナリ、此レハ今日又チ七十ニシテ
 彼 然リ商賈、取引キト正道ニ由ラレハ者多シ
 彼 銅ヲ要スレバ、同治年来、銅價ヲ調ラセシメ、
 此 此ニ別紙ヲ通シテ、謀リナキヤ、其地取引キルニ至
 我 大過ナシ
 彼 同治初年十三テ、内外者何故、其後十九テ、内外

彼 同業者社ナリキ一セキニ始ニ故ノ時數トチキ一セキ
 大國トシ
 予ニ思後ノ國トシテ終ニナキ
 彼 德ノ敵トシテトニ國語件其ノ國ニ進取トシテ入リキ
 彼 武ニ進取ノ限ニテ月日ノ國ニ西ニキテ其ノ
 國語トシテ其ノ事トシ
 彼 國語トシテ其ノ事トシ
 彼 武ニ進取ノ限ニテ月日ノ國ニ西ニキテ其ノ
 國語トシテ其ノ事トシ
 彼 武ニ進取ノ限ニテ月日ノ國ニ西ニキテ其ノ
 國語トシテ其ノ事トシ

我 外ニ昇レルヤ畢竟銅ノ需用増加シテ狀ルカ
 然ラズ臨時ニ需用増殖スレバ其理アリ然レニ我國^銅尤
 富ニ需用漸ク増殖スレバ其任入レ亦隨テ増殖ス
 然ラズ然ノ價ニテ係テ非常ノ昂底ハ莫ルヘシ
 然ラズ然^銅ノ價ニテ係テ非常ノ昂底ハ莫ルヘシ
 然ラズ然^銅ノ價ニテ係テ非常ノ昂底ハ莫ルヘシ
 降ルニ如何ノ故カ
 我 今日ノ相場ハ格外ノ下落ニテ本價ニ非ルヘシ唯取引
 キ莫クシテ此ノ空ナル相場アルノトモ實地取引キアルニ至
 ラハ亦昂貴スヘシ
 彼 以前トシテ其ノ銅其後十九日トシテ一日降り如何
 如何

彼 此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に
此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に
此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に
此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に
此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に
此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に
此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に
此は十一年一丁の間に十一年一丁の間に十一年一丁の間に

我 以前我國銅の製法は其の粗惡なるを慮し四五年以來
銅の精製するの術を以て今日に至るは其の位英銅
ト匹敵する價も亦昂貴なり然レ此以前ノ十三ヶ年モ
今日ノ十九ヶ年モ銅の固有ノ價ヒテ其差異を生ス
ル所以ハ製法の精粗ニ在リ
彼 當地北京銅の消費甚多ニ銅の各種見
本及ヒ當地と運送シテ何カ程ニテ取引キ
出来ルヤ明細ニ取調メ度シ領事因進シ其
ルヤ否
我 喜シテ中堂ノ求メ應スヘシ實ニ銅ノ購求ハ仲人

天

銅ニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者

天

銅ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者

天

銅ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者

大隈重信侯傳稿集卷一

天

手ヲ經ル毎ニ運送費ヲ敷料相加リテ其ノ昂
其ノ致ス預ノ高ト價ヲ定メ製造主ト結納スル便
且廉ナルコト加カス

天

實ニ然リ其國ノ銅ノ質堅ク英呂宋ノ銅ニ及ハス亦或
ハ品ニ劣リ用ニ適セザルノ聞アリ誠ニ然ルヤ

天

其明細ヲ知ラス然レモ我銅ニ數種アリ堅ナルモアリ
軟ナルモアリテ我カ國內所用ノ諸具ニ供シ更ニ不
適事ナシ依テ我國外國銅ヲ仰リテナン灰カニ

天

聞ク外國人ノ其國ニ輸入スル銅ノ中ニ往々日本銅
交ヘアルト

天

大臣ニ曰ハルト
ト行ル所ニ至リテ其ノ銅ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者其ノ爲メニ其ノ價ノ高トシテ其ノ用ニ至リテ其ノ價ノ低トスル者

文ハトシテ
國ハ外國ノ入ルル國ニ歸スルカニハ切ニ日本
國ニ對シテハ其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ
歸ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ
其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸
ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ
其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸
ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ
其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸
ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ
其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸
ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ
其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸
ルカニ切ニ其ノ故國ニ歸ルカニ切ニ

彼地全然リ我モ亦是ラ國ケリ外國人ヲシテ吾國間ノ利ヲ
占ムル可ラス
我之亦當年ハ封河ノ期近シ銅見本歲ハ冬期ノ間ニ合ヒ
俄シク蕭子シ
彼新當冬ノ間ニ合ヒ俄シク來春開河ノ節ニ
テモ苦シカラス
右ノ外雜語有リ中々多量ニ有リ折畧行。季鴻
章ノ心中ニ銀貨鑄造シ考ハ充テ有之得者其俄全
國一般ニ關係シ總理衙門ニ行ハス又中事柄ニ關係在素
大臣一同承諾セテ行ル可ラス然レ北京政府ニ於テも全

大銀の回を操りたるに於ては、此の爲に銀貨の流通を妨げず、
國境に遠く、船運等により、幣行の便を謀り、且、
海に於ては、銀貨の流通を妨げず、且、
幣行の便を謀り、且、
幣行の便を謀り、且、
幣行の便を謀り、且、
幣行の便を謀り、且、
幣行の便を謀り、且、
幣行の便を謀り、且、
幣行の便を謀り、且、
幣行の便を謀り、且、

銀地金は其の多し、亦、民間にて銀塊を造る可き禁止し、新令
も、行はさず、到底銀地金を備へ置きて、余るは、外他策
等之依り、李鴻章、銀山開採し、頻りに、益を致し、
俄に、その所、就るも、支那にて、我の貿易、銀と、同位、同量
に、新貨の製造、我に、益を、論至、當に、我思、了、我
全銀銅貨、各種一枚、見ると、箱に入し、日清兩國、同
位、同量、に、貨幣、の、製造、其、貿易、之、便、あり、貨幣、の、全
國、一定、の、モ、リ、用、に、ガ、ル、可、ガ、ル、貨幣、人民、の、私、造、之、可
ウ、ザ、ル、等、の、理由、ヲ、詳、記、シ、タル、書、綴、所、附、し、李、鴻、章、の、
出、送、り、左、の、了、征、し、新、貨、鑄、造、し、念、念、切、実、と、古、成、何、カ

Handwritten vertical text on the right page of an open book. The characters are in cursive style. The text is mostly illegible due to blurring.

仁羅仁道一

(大隈重信侯傳稿書)

Vertical handwritten text on the left page of an open book. The characters are in cursive style. The text is mostly illegible due to blurring.

仁羅仁道一

大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議

大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議

大隈内閣の閣議

博文

大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議
大隈内閣の閣議

大隈内閣の閣議

大歐留功

嘉次

此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園
此紙在花園

(天候軍信候傳書會)

聖上蓋印樣極難能可貴
順上水田等波在東京
高皇太后正無性波在東京
存候去親了取海邊
此條約守修了了
二乃舍受書了了
法亦了都令山難已定
令權委了了了了了
拙了俄了了了了了

仔細抄文找了

大隈重信侯傳稿

第一般也、其以... 大隈重信侯傳稿

(大隈重信侯傳稿)

若江府旁... 大隈重信侯傳稿

何蘇博文校了

此稿中并少義中中何府之言一原文余令
書案亦持之有在何蘇博文之上沈評決
可也本微之相案作之就平即于平并何亦
後一事遂送一國之亦以事改者一此評議
論之上亦甚可為之也此指國為之也
諸作在何蘇博文便之亦以事改者一此評議
且多中上之亦甚可為之也此指國為之也
此在何府之言及之也此指國為之也
何蘇博文校了

(大隈重信侯傳稿集會)

此稿中并少義中中何府之言一原文余令
書案亦持之有在何蘇博文之上沈評決
可也本微之相案作之就平即于平并何亦
後一事遂送一國之亦以事改者一此評議
論之上亦甚可為之也此指國為之也
諸作在何蘇博文便之亦以事改者一此評議
且多中上之亦甚可為之也此指國為之也
此在何府之言及之也此指國為之也
何蘇博文校了

何蘇博文校了

上五二七

何蘇

此稿中并少義中中何府之言一原文余令
書案亦持之有在何蘇博文之上沈評決
可也本微之相案作之就平即于平并何亦
後一事遂送一國之亦以事改者一此評議
論之上亦甚可為之也此指國為之也
諸作在何蘇博文便之亦以事改者一此評議
且多中上之亦甚可為之也此指國為之也
此在何府之言及之也此指國為之也
何蘇博文校了

カニ 明カ

明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ
明カ 明カ 明カ 明カ

(大隈重信侯傳稿集)

大隈大輔殿 博文

華 王族 福割 内 愛 華 一 五 年 一 月 九 日
事 記 大隈大輔殿 博文
敬 啟 者 貴族 府 長 官 大隈大輔殿
御 下 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承
一 事 之 旨 奉 到 謹 此 仰 承 謹 此 仰 承

伊藤博文

五月九日
華去族禱制は愛華五年、有るに
事犯除族、刑、好、備、若、保、若、没
改、即、今、以、決、議、去、族、五、九、州、臨、時、裁
判、等、に、有、る、厚、至、方、の、能、多、は、内、議
、其、中、に、有、る、條、に、餘、有、る、是、自、見、し、る、に
、事、に、付、し、東、海、等、に、一、應、上、京、し、即、以
、評、決、の、事、成、る、に、以、て、以、來、有、る、言、は、解、纏、
前、必、令、一、定、由、入、京、也、之、後、以、日、左、右、等、及
、直、通、報、等、標、以、係、示、存、中、自、了、勿、し、勿、也

(大隈重信侯傳圖章會)

大隈重信侯傳圖章會
此圖章傳圖章會

(大隈重信侯傳圖章會)

大隈電信株式會社

大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社

大隈電信株式會社

五月九日

大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社
大隈電信株式會社 東京支店 大隈電信株式會社

十一月十日

伊藤博文

伊藤信女様へ

唯今古俗の如く白の印を奉り定例玉作百
進の所へ御座り申す千の家にお娘の如く
在りぬる事と申すお母様お借波御作
の事と申す謝の事然しお都へお取寄り
の事と申すお達意の事御作の事と申す
再お

十一月十日

11/10

大隈重信侯傳書
伊藤信女様へ

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on a lined page.

1/15 + 17

大隈

大隈様

博文

Main body of handwritten Japanese text in cursive style on a lined page, with the characters '大隈様' and '博文' highlighted.

大隈 毅

毅 文

(大隈重信侯爵書)

俄國上層多不親之也。故其法。俄人。初。其。成。し
 昨。日。男。如。也。其。事。今。於。福。地。公。使。來。訪。談。判
 大。志。也。と。面。て。其。事。進。出。し。其。進。出。の。政。策。有。る。事。也
 我。政。府。と。條。約。改。正。起。事。多。故。に。歐。海。各。政。府。に。對。し
 て。不。承。知。を。恐。れ。進。出。し。固。之。り。た。る。事。に。對。し。建。て。日。年。を。以
 ち。委。員。を。歐。海。に。一。地。に。派。遣。し。各。國。に。名。代。入。り。集
 會。し。て。條。約。改。正。の。大。體。に。條。約。改。正。の。前。議。と。其。中
 在。條。約。改。正。の。日。中。に。於。て。裁。裁。を。行。は。れ。た。る。事。に。對。し
 時。々。の。變。遷。不。失。其。條。約。改。正。の。歐。海。各。國。の。主。張
 上。未。だ。之。に。不。承。知。を。恐。れ。其。中。に。於。て。之。を。以。て。

大隈重信侯爵書

Handwritten notes in vertical columns on the right page of an open book. The text is written in Japanese cursive style and appears to be a translation or commentary related to the adjacent page's text.

俄正に上野多美親の遺言に依りて俄に改訂人、初發成りし
意、は俄に交りて、おろそかにたれりしに、自ら出立、付
字を以て成程のり、す應に改訂を以て改訂する可き
に、至極可なり、改訂を以て、一先、親に對して、勸告
に、謝るる所あり、一先、色に、色は、改訂する、在望、三分、
口布、十分、新、法、利、後、局、に、務、る、可、き、故、再、考
に、上、野、改、訂、一、先、親、の、遺、言、中、に、確、信、一、種、及、其
を、著、筆、中、に、若、し、改、訂、す、可、し、何、ん、だ、と、改、訂、す、可、し、及
改、訂、す、可、し、と、お、ろ、そ、かに、改、訂、す、可、し、と、改、訂、す、可、し、
賢、基、及、寺、島、一、改、訂、す、可、し、と、改、訂、す、可、し、と、改、訂、す、可、し、

Handwritten text in a foreign script, likely German, arranged in horizontal lines across the page.

(大隈重信侯爵書)

上野、句、形、音、再、也

四月廿五

再伸美政府方之電信... 電文之意... 殊... 志... 出... 能... 以...

何者仍又故了

Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of a document. The text is written in a cursive style on a grid background.

(大隈重信傳編纂會)

<p>大隈重信傳</p> <p>抄</p>	<p>抄</p>
-----------------------	----------

Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of a document. The text is written in a cursive style on a grid background.

(大隈重信傳編纂會)

何事修文哉了

此書之原也... 就中一寫... 坊功者... 屏之... 佐有... 抑... 小... 全... 形...

(大隈重信侯爵遺書)

大隈重信侯爵遺書

正徳元年

正徳元年の事... 大隈重信侯爵

大隈重信侯爵

大隈重信侯爵の書簡... 大隈重信侯爵

Handwritten text in a cursive script, likely representing a list or a detailed account. The text is written vertically across the page.

尚詳細及は振議号、標依於、付は身是委あ
あすあすり、御令、四千人数と申之其如しの御信
向隔此の御信、又、と者、古職、強局、三千人位
ニお成、申、御信、た、二、一年、と、大概、六、第
復位、と、者、の、有、之、於、是、は、鹿、也、鳴、と、特、異、物、と
見、做、し、ぬ、外、有、之、る、事、断、然、押、切、と、言、ふ、御、信、上、に
仰、揚、し、る、事、著、乎、御、令、と、推、し、甚、難、儀、と、懸、り、付、法
實、は、没、察、し、ぬ、事、と、言、ふ、御、信、中、に、有、る、事、を、思、ひ、
以、前、は、身、に、藏、御、令、申、事、を、申、上、御、信、其、中、一、致
具

大物 大物
 大物 大物

(大隈重信侯傳書)

過の及在り候事、英、薩、高、嶋、差、込、之、儀、
 存、在、之、儀、其、在、之、儀、(一)此、事、之、存、在、之、儀、
 申、上、之、儀、有、之、候、事、也、也、

十二月二十一日

丁酉年正月一日、由、吉、岡、藩、寄、附、之、儀、申、上、之、儀、有、之、候、事、也、也、
 事件、之、存、在、之、儀、其、在、之、儀、(二)此、事、之、存、在、之、儀、
 存、在、之、儀、其、在、之、儀、(三)此、事、之、存、在、之、儀、
 之下、儀、其、在、之、儀、(四)此、事、之、存、在、之、儀、
 之、儀、其、在、之、儀、(五)此、事、之、存、在、之、儀、

何為博文、哉了

五、海防費(海軍)

一、海防費(海軍) 同(海軍)
二、海防費(海軍) 同(海軍)
三、海防費(海軍) 同(海軍)
四、海防費(海軍) 同(海軍)
五、海防費(海軍) 同(海軍)
六、海防費(海軍) 同(海軍)
七、海防費(海軍) 同(海軍)
八、海防費(海軍) 同(海軍)
九、海防費(海軍) 同(海軍)
十、海防費(海軍) 同(海軍)

大隈重信侯爵

大隈重信侯爵

千八百七十五年揚子

二十五萬圓

同年

二十五萬圓

千八百七十六年

十五萬圓

千八百七十七年

二十五萬圓

都左四十五萬圓七千五百圓

ハルリーパークス

大隈重信侯爵

1921-1-24

1710 2.4 1710 1710

1710 2.4 1710 1710

1710 2.4 1710

1710 2.4 1710

1710 2.4 1710

1710 2.4 1710

1710

1710 2.4 1710

1710 2.4 1710

(大隈重信侯爵御書)

伊蘇博文(下)

大隈博文

博文

博文

大隈博文

大隈博文

大隈博文

大隈博文

(大隈重信侯爵御書)

大隈重信侯爵
 大隈重信侯爵
 大隈重信侯爵



大隈重信侯爵御書

八年四月廿

一、新銭幣拵五条用

但言白彦坑并七崎外是之利因亦拵抵之南

蓮葉社長後藤藤三氏北月五条、利米、以

八、三十万迄五月限付下、

田

全三万田

全二万田

全一万田

八年十月十日 記帳 五田

九年十月十日

九年四月十日

「新々意」
151044-144044 (144) 0444-144444 144444 144444 144444
144444-144444 144444 144444 144444 144444 144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444

144444

144444 (144) 144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444 (144) 144444 144444

144444 144444

144444

言尚石岸坑拂代既納未細閱

明後年中拂下...

十年...

四

全以核万系

即納滿

全方五系

十年...

全三万...

十年...

外全...

十年...

納滿

官國學明

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

5

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

上海

上海

上海

上海

上海

上海

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

三萬五千五百元

上海

上海

上海

上海

上海

上海

上海

上海

上海

富國強明
佛事增廣

縣下之日景及先夜日勢卿以上申之末尚遊探侯
候處全高知縣之氣日意仰才處二備集盡
策不所んカ如し抑縣下堂派之多年一第片而象
知之通り候處近來北垣大書記官不平士族之内重
立候者等寓居江戸等也就中本村弦雄古者今
度故廣澤冬儀暗殺事件白土坂換革局日捕
縛北前秋富長於空談元等其舉動不容易
隨之屬官等疑二可抱中外患ハ差置内憂不知所底
此等恠切迫月不得止別紙之通り内務卿江具狀

(大隈重信侯傳編纂會)

Handwritten notes in a table format, including names like "Kaminokoshi" and "Kaminokoshi" and other illegible text.

大隈重信 大隈重信

大隈重信侯傳稱書會
候條可然市詮議被下度尤事官即同糾之上上ラテ
而採用難在年節候了直上京可以因リ難縣
奉職之上二身之生死一節之覺悟ノ前ニ候得共故送
之好策ニ隔レ候ハ遺憾至極ニ付感重ニ思了然不
奉仰候也

明治七年六月十日 鎮守縣推令富岡敬明



大隈參議殿

大隈重信侯傳稱書會
候條可然市詮議被下度尤事官即同糾之上上ラテ
而採用難在年節候了直上京可以因リ難縣
奉職之上二身之生死一節之覺悟ノ前ニ候得共故送
之好策ニ隔レ候ハ遺憾至極ニ付感重ニ思了然不
奉仰候也

大泉通寶

國幣六年六月十日 鐵幣鑄造局 鑄



於字款均

其字一辨... 鐵幣鑄造局... 鑄

(大泉通寶 鑄造局)

不堪事情逼迫... 當縣大書記... 興隆之方法... 面從之退... 二至之隨... 蕭之若慮... 之舉動尚... 隔之事跡... 樣之形狀...

才振雄留任及新子家当主

前々在任下田能因不、宗徳也、且村殿、流下、何れ

田能因能振雄大政

皇統十/年/六/月/十/日

御大藏省入題題振雄

才振雄留任及新子家当主

前々在任下田能因不、宗徳也、且村殿、流下、何れ

華盛頓より電信に過し、
小老の取次文意ハ丸テ、
事ハ其知ハ、
事ハ一國ニ、
と歐西ハ、
口名存ニ、
全權使節ハ、
條約ハ、
是ハ先跡ヲ、

伊藤傳文了

無線電大衆

無線電の普及は、世界の各處に於て、
益々進歩を遂げ、一般の民衆に於て、
その利便を享受するに至つた。其の
由は、無線電の技術が、日進月
進を遂げ、その性能が、益々向上
したるに在り。故に、無線電の
普及は、益々進歩を遂げ、一般の
民衆に於て、その利便を享受する
に至つた。其の由は、無線電の
技術が、日進月進を遂げ、その
性能が、益々向上したるに在り。

(大衆電信候傳編纂會)

無線電の普及は、世界の各處に於て、
益々進歩を遂げ、一般の民衆に於て、
その利便を享受するに至つた。其の
由は、無線電の技術が、日進月
進を遂げ、その性能が、益々向上
したるに在り。故に、無線電の
普及は、益々進歩を遂げ、一般の
民衆に於て、その利便を享受する
に至つた。其の由は、無線電の
技術が、日進月進を遂げ、その
性能が、益々向上したるに在り。

Moscow
London
Paris
Berlin
Rome
Vienna
Warsaw
Stockholm
Copenhagen
Helsinki
Oslo
Stockholm
Copenhagen
Helsinki
Oslo
Stockholm
Copenhagen
Helsinki
Oslo

(大隈重信侯爵編纂)

已便之、一、
見之、
上其、
都令、
而也、

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically and appears to be a mix of Chinese characters and possibly some Latin or English characters, though it is difficult to decipher due to the cursive nature.

立波之由... 有... 二口

(別紙断片)

大久保、
初部 布 吉 高
如 部 吉 高

大隈電識院
有皮
以友... 子

右取
大歸新渡河

大以遊、
宮諸山

(遊覽地)

1/2

大歸新渡河

伊藤博文書簡
 十七通
 紙數七十六枚

(大隈重信侯爵編纂會)

伊藤博文書簡
 十七通
 紙數七十六枚

(大隈重信侯爵編纂會)

伊藤博文

一昨本侯府より東京へ
 七月廿四日
 伊藤博文
 十七通
 紙數七十六枚

(大隈重信侯爵御書)


(Large empty rectangular frame with vertical lines)

總數九十六枚

十六卷

伊藤博文書翰

九月十日 東京 伊藤

(大隈重信 伊藤博文 會)

一昨由港名來此學士一書令讀之引左新
僕切實之誠一函佳甚其認志亦一能氣付
し得し大に為益來我政府には為し一の事
手と推考其巨細何府之上と云ふは西議
可上以得し一多し進し及熱誠其
即今夕の十一書令送し一其誠はベルトツシ
話之上如御行面を以て口ベルトツシ不暇し
痛く及御白し一右迄書し其末又書しケ案
し其件者之隨ふ十一と一投書を除却し

伊藤博文書翰了

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically in Japanese characters.

大隈重信侯爵書翰

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically in Japanese characters.

Handwritten text in Japanese Kuzushiji, likely a page of prose or a letter. The characters are densely packed and written in a highly stylized, cursive form. The text is oriented vertically on the page.

(大隈重信 揮毫)

Handwritten text in Japanese Kuzushiji, continuing the prose or letter from the previous page. The characters are densely packed and written in a highly stylized, cursive form. The text is oriented vertically on the page.

明日二梅府も是格に成りて是れ福利始末

Handwritten Japanese text in a vertical column on the right page.

Handwritten Japanese text in a vertical column on the left page.

十二日始行存書

トリスチノミ

大隈重信の書

大隈重信の書
トリスチノミ
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書
大隈重信の書

大隈重信の書

大隈重信

重信

重信

何年此地之古柳子及近日之由堂兄等
早之為亦予之為心得乃之のあまとな
一首表すあふ方路之あははあふをを打と夫
様考家好く中説し有と得れ有留少初に
世し高きとふ舞亦良は事之慶合は正嚴其亦
内外人民若怪不少は併是考、形宛所録、其
す、之、以、都、在、上、為、得、在、一、可、成、其、は、由、得、也
下、以、時、を、一、案、は、由、話、中、句、一、以、比、は、由、在、来、一、の、也
成、分、乃、は、由、去、一、の、也、也

七ノ廿日

西云ノ仕也

Handwritten text at the top of the page.

Handwritten text at the top of the page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

春日遊老乞

Main body of handwritten text on the left page, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

Handwritten text in red ink at the bottom of the page.

Blank page with faint vertical lines and illegible handwriting.

大隈重信侯傳書

今般十一日午後、其ハ越越ニ一ポルト月法ニ条
略漢到ト直ニ極法未ニ一系在ル下其真
主急ニ不有テ一ト一ポルト約条中及死者
時ハ月法法條ト在テ政府ハ直上ト可及儀
南端トカクテ一ハ約条初年ニ死者ハ三月
分ニ高ク其ハ二ハ年中ハ九月三ハ年ハ一ハ可
分ト叫テ一ハ在テ社ニ氣付テ一ハ在テ
中其當日ハ儀法条中ハ高ニ一ハ在テ一ハ在テ
醫幸時條法条加カク死ハ醫生ハ確證

伊藤博文 校了

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically in Japanese characters.

天保重信侯傳書

差遣一帛衣表向澤河達あるか此帛於江
戸山島友之節一箱書帛とのりはせし
太政官一印紙二葉一表九石舟傳り写し
探書者中よりとまひて二べルトソレ
お新中
美公使中より書記わすトレを改甲石蔵に其地
し交りしとありて去る府内船に租稅政府
水網を致し承知を有官賞へし奉りし令を
成し探書者より探書其改以り
に取納し外と承ひ一切おかり不申し付禮

伊藤博文氏

大隈重信侯爵様
 貴族院議員
 東京市丸の内區丸の内三丁目一丁目
 大隈重信侯爵様
 貴族院議員
 東京市丸の内區丸の内三丁目一丁目

(大隈重信侯爵様御座り)

大隈先生
 博文
 博文先生
 博文先生

(大隈重信侯爵様御座り)

大興行州 勘次

(大隈重信侯傳編纂會)

大興口融出中、原先以法法連の正本は、
 在茶野、然、生、在月朔、兵庫、右港、
 道、向、開、康、津、河、と、神、戸、同、ス、テ、レ、コ、シ、セ、可
 定、右、口、正、本、の、游、郭、御、示、則、あ、り、他、の、地、所、の、轉、移
 不、為、以、多、の、道、の、勢、勢、を、と、め、と、あ、ら、ぬ、に、付、後、山、接、近
 之、地、に、為、引、移、り、中、ノ、貴、方、に、多、ク、シ、テ、又、成、ノ、字、據
 道、所、年、々、の、期、に、沿、り、移、り、久、勿、の、お、積、り、の、事、疑
 有、存、對、然、法、着、の、地、左、右、側、の、地、不、想、而
 内、地、人、民、に、住、ま、り、お、定、鐵、道、の、事、も、場、亦、又、ケ、ル

伊蘇博文 校了

西宮一宮... 仁徳天皇... 西宮一宮... 仁徳天皇... 西宮一宮... 仁徳天皇...

(大隈重信侯爵編纂)

陸道多競... 陸道多競... 陸道多競... 陸道多競... 陸道多競... 陸道多競... 陸道多競... 陸道多競... 陸道多競... 陸道多競...

此處所稱之「*Chin*」或「*China*」
 係指「*China*」而言、*China*係指「*China*」
 一詞、*China*之「*China*」係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」

*China*係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」

新嘉坡之「*China*」係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」

此處所稱之「*China*」係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」

此處所稱之「*China*」係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」

此處所稱之「*China*」係指「*China*」
 此處所稱之「*China*」係指「*China*」

此、*Handwritten text in cursive script, likely a letter or document.*

(大隈重信侯傳編纂會)

高次郎公就臣捕奉向藝之節、*Handwritten text in cursive script.*

鐵道掛毛レル一應歸府台、*Handwritten text in cursive script.*

夫、*Handwritten text in cursive script.*

知、*Handwritten text in cursive script.*

吾并、*Handwritten text in cursive script.*

自、*Handwritten text in cursive script.*

此、*Handwritten text in cursive script.*

手、*Handwritten text in cursive script.*

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a document, written on a grid. The text is arranged in several lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are fluid and connected, characteristic of cursive calligraphy.

(大隈重信長傳編纂會)

民部大輔 大隈重信

Background text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns within a grid.

何處傳文了

Handwritten text in red ink at the top of the right page.

Main handwritten text on the right page, written in black ink within a rectangular border.

大隈重信侯爵書

Main handwritten text on the left page, written in black ink within a rectangular border.

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or report. The text is written vertically from right to left across the page.

(大隈重信侯爵書)

入事或二三通の事あるは約事との為甚而と譯
之は事は熟儀の上の後は也この事下下と
申す御程は音一再也
二月十日
為事相関係の般、之は事下下と有は在候
一
日満方報分所と有し十日十日ありて我事
賊位大敗此巨魁の者捕得候賊、之は事下下
討必全勝は事下下と有し事下下は階、之は事下下
事下下上引事下下と有し我し官、之は事下下、賊賊し

大隈 大隈 大隈

大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈

借賦彼語之儀... 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈 大隈

伊藤博文 找了

大歌吟所
 大歌吟所
 大歌吟所

大歌重信候傳書

明治六年正月廿日 伊都巴里新

先般曆法即改曰ノ電信五ノ号九是則町ノノ彼我
 日一之元旦至萬日之祝詞を込ん為各國使臣
 一月一ノ其到大饗飲ノ福見新年を賀せり 左禮典
 一願簡易之各國公使何事ノ平常禮服之用ハ又
 一其次ノ順序ハ職位新由ノ所定也者自道ニテ握
 手ノ禮を行ハ退去也
 去十二月二十日外務尚書ノ招待ノ儀ノ日也ハ公館ニ
 おりて各國公使一四名長官ノ其人員三十四名内大

伊都傳又成了

此は西の事なり。其の事は、
 獨りて之を其手或は他國に
 傾けし復て其手或は他國に
 英公使。パラス。李使。ホ
 邦。其越。越。は。其。日
 歸。其。條。約。改。定。を。促。ス。了。簡。在。キ。手。勿。論
 其。使。若。し。再。行。に。就。キ。改。訂。し。全。權。委。任。帖。を
 其。政府。より。受。領。ス。ベシ
 是。子。に。俄。に。推。察。ス。る。實。也。政府。と。は。防。利。の。時。極
 之。臨。事。に。預。テ。難。在。キ。其。事。を。付。キ。其。事。を。以。て。後
 之。後。迄。其。事。を。引。為。ス。る。に。即。駭。尾。に。從。口。奪。奪。也

(大隈重信侯傳編纂會)

獨りて之を其手或は他國に
 傾けし復て其手或は他國に
 英公使。パラス。李使。ホ
 邦。其越。越。は。其。日
 歸。其。條。約。改。定。を。促。ス。了。簡。在。キ。手。勿。論
 其。使。若。し。再。行。に。就。キ。改。訂。し。全。權。委。任。帖。を
 其。政府。より。受。領。ス。ベシ
 是。子。に。俄。に。推。察。ス。る。實。也。政府。と。は。防。利。の。時。極
 之。臨。事。に。預。テ。難。在。キ。其。事。を。付。キ。其。事。を。以。て。後
 之。後。迄。其。事。を。引。為。ス。る。に。即。駭。尾。に。從。口。奪。奪。也

第ニ此州 蘇州の西に大勢の鹽水圍地あり
 此地の西に蘇州あり一帯の地を水圍地
 大勢あり此の地は蘇州の南に蘇州の東に
 蘇州の北に蘇州あり此地の地は蘇州の南に
 蘇州の北に蘇州あり此地の地は蘇州の南に
 蘇州の北に蘇州あり此地の地は蘇州の南に
 蘇州の北に蘇州あり此地の地は蘇州の南に
 蘇州の北に蘇州あり此地の地は蘇州の南に
 蘇州の北に蘇州あり此地の地は蘇州の南に

(大隈重信侯爵書)

我輩し知れりし事柄あり自り現に高れ
 ても耶蘇の書に在りし事柄を熟知せり
 故に我國の教法に然し行ありしと云ふは洋人の向て
 能くし不能と事案を推し事理を論じて考つて
 國下して其の旨を掲げし其の行に力して國威何れ
 て事立つべき又民心を安んじしこと誠心
 へ事なり候須らりて之を廢すべし事案に換
 へるべし其の旨を掲げし其の行に力して國威何れ
 ノ律法に於て其の旨を掲げし其の行に力して國威何れ
 及つ所内外人民の別ありしを唯自國人民其法

(大隈重信侯爵書)

此種之... 議院... 議決...

口上論... 議院... 議決...

支那の通商に於ける
一、支那の通商に於ける
二、支那の通商に於ける
三、支那の通商に於ける
四、支那の通商に於ける
五、支那の通商に於ける
六、支那の通商に於ける
七、支那の通商に於ける
八、支那の通商に於ける
九、支那の通商に於ける
十、支那の通商に於ける

又、支那の通商に於ける
一、支那の通商に於ける
二、支那の通商に於ける
三、支那の通商に於ける
四、支那の通商に於ける
五、支那の通商に於ける
六、支那の通商に於ける
七、支那の通商に於ける
八、支那の通商に於ける
九、支那の通商に於ける
十、支那の通商に於ける

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a journal entry. The text is written vertically from right to left across the page.

歸府の上のりり

昨の夜大坂飛却船所着る全礼お陽の光に
し差り生じし下是の大坂より多分し礼う振あす故
とて函の中へ紙を封未詳虚山一山の子を曲り馬
車と自記す

馬車一乘の寄金四りありしを調当りて
お余十一両の事ありしは余とてお書す

松平 貞お

三十一日

信三拜博文

1100-5/6

名

...

...

...

...

...

...

(大隈重信侯傳稿)

大隈侯府

...

博文

Main body of cursive Japanese text on the left page, partially enclosed in a rectangular box.

五明海歌

Handwritten text in a vertical column, likely a song or poem. The characters are in a cursive style.

(大隈重信侯傳編纂會)

加口各計... (Vertical text on the right side of the page)

Vertical text on the right side of the page, continuing the previous line.

Vertical text on the right side of the page, continuing the previous line.

Vertical text on the right side of the page, continuing the previous line.

Vertical text on the right side of the page, continuing the previous line.

大隈侯

西宮法皇

均文

伊豆傳文

Handwritten text in a vertical column, likely a transcription of a document or a letter. The characters are in a cursive style.

(大隈重信侯傳書)

Handwritten text in a vertical column, enclosed in a rectangular border. The text is written in a cursive style.

大隈重信侯

手書

大隈重信侯

何處何人何事

何舞傳文哉了

昨十日畢府、到、着、此、其、處、條、約、多、結、了、未、有
 議、論、不、看、一、處、折、一、最、議、決、定、一、處、別、代、公、書
 二、詳、細、陳、述、以、至、候、了、自、了、解、の、仰、中、候、又
 廟、堂、に、於、て、毛、表、東、一、處、分、御、駕、馬、場、可、有、之、と、申、候、得
 共、事、宜、白、王、國、の、利、害、の、較、量、は、其、事、業、所、と
 奉、仕、院、様、の、處、分、は、其、所、に、申、候、勿、論、國、家、の
 上、に、御、御、不、都、左、に、立、所、に、申、候、無、之、折、候、是、候、酒
 共、西、人、帰、朝、百、端、廟、堂、の、願、し、候、亦、泡、之、屬、に
 今、更、講、解、傳、言、の、禱、柄、之、節、至、一、身、の、利、害

(大隈重信侯傳書會)

the knowledge of the... (faint handwritten text)
 大隈重信侯傳書會
 大隈重信侯傳書會

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or document. The characters are in a cursive style.

(大隈重信侯爵書)

七月十四日

Handwritten text in vertical columns, enclosed in a rectangular border. The text is in a cursive style.

昔年也

2010. 5

Good morning! I'm very happy to see you. I hope you are well. I'm doing fine. I hope you are also well. I'm looking forward to seeing you soon. I'll be in the city next week. I'll let you know when I'm there. I'll be in the city next week. I'll let you know when I'm there. I'll be in the city next week. I'll let you know when I'm there.

(大隈通信供傳編纂會)

大隈通信

大隈通信

閣下

博文

大坂新町 大坂新町

引換は若くは出た京共然るは是れも一紙便を歸
 府の以て存存を交京都申而河橋右玉急上京
 可比探再二西中事、并明の上京の北心得ては
 本年月初旬に紙便を一紙歸り申す、申すは
 此意は予滿るなり、決り因補を達知此意あり
 此意は予、此意は予を用る、此意は大凡通商
 可也、京坂右京京橋院へ、京脈右通、柳佐等
 神戶へ、西へ、京右、京右、京右、京右、京右
 得、此意は予、此意は予、此意は予、此意は予

伊三郎傳文

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically on the right page of the notebook.

(大隈重信侯傳書)

Handwritten text at the top of the left page, possibly a header or a specific address.

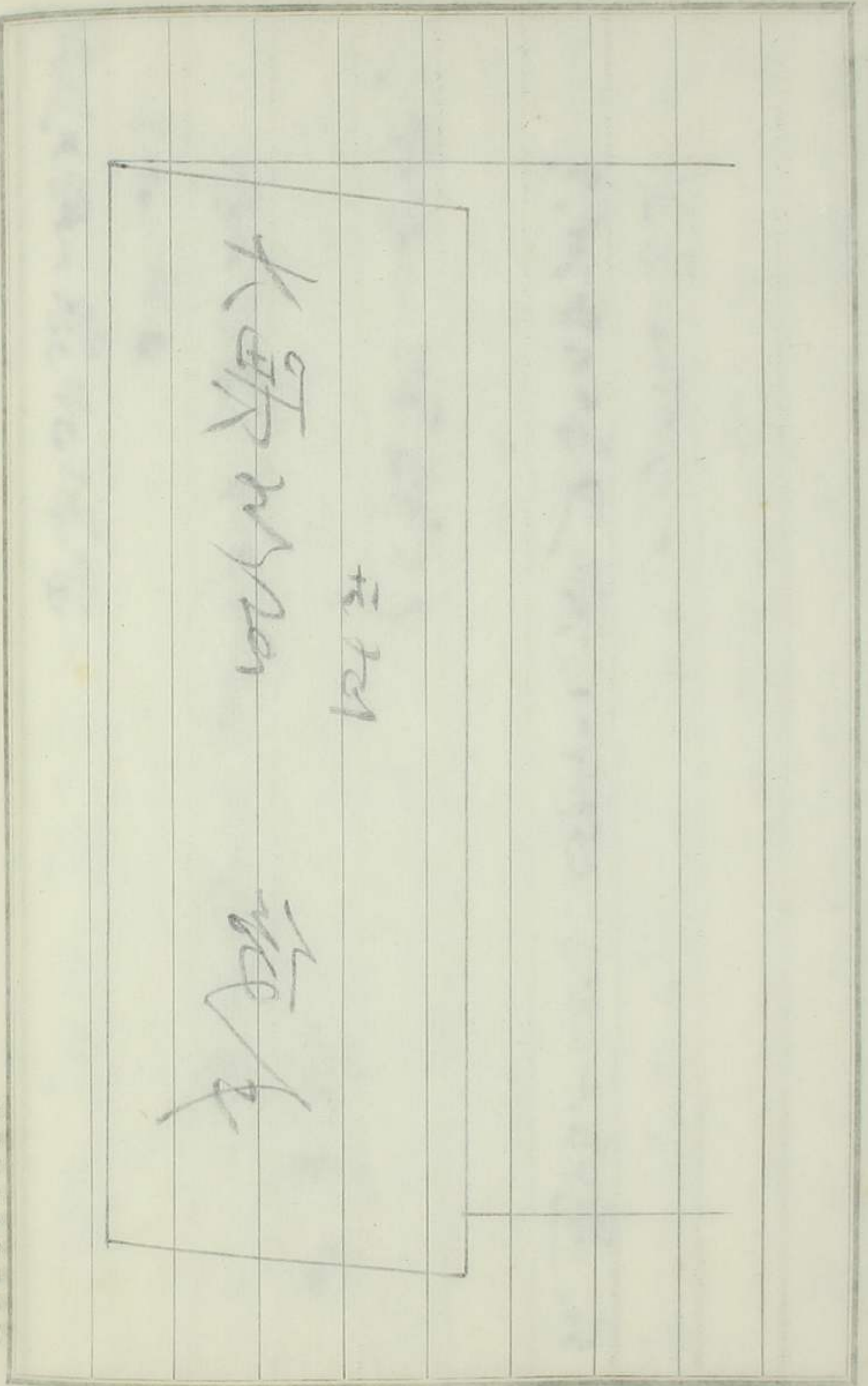
Handwritten text in the middle of the left page, continuing the vertical writing.

俊也

Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a closing.

Handwritten text in the lower middle of the left page, continuing the vertical writing.

154



(大野山遺跡調査)

(大野山遺跡調査)

福地一系井上二流之終之善記友之古蓮石
 越、与至南、市、北、之、南、人、井、上、右、字、之、案
 之、後、者、此、方、自、此、南、人、隨、河、を、考、時、ハ
 王、原、以、邊、身、不、情、概、存、大、花、者、子、於、之、と、南
 中、分、却、と、り、る、ま、で、ま、り、知、機、決、定、存、以、此、西、山
 合、ま、り、や、ま、り、を、以、上、高、畧、識、く、不、生、標、以、接
 南、山、依、務、子、了、相、名

十日十石標

西野山遺跡ハ井上右字畧識可也

石野山遺跡

月家... 大隈重信

十... 大隈重信

... 大隈重信

... 大隈重信

... 大隈重信

... 大隈重信

... 大隈重信

... 大隈重信

... 大隈重信

大隈重信侯傳編纂會

大隈重信

大隈重信侯傳編纂會

大藏院藏
 正徳元年
 大藏院藏
 正徳元年

(大藏院信條傳編纂會)

何禮之即外務省、以申可也、或儀、稱之、故降
 卒之、以後、托脚、亦使、去、以、呼、出、其、制、稱
 既、至、馬、道、ハ、片、時、之、中、出、張、中、付、シ、カ、乃、可
 然、也、也
 曰、高、島、尾、ハ、孫、也、ト、テ、者、馬、也、子、也、故、考、之、ト、知
 一、由、也、ト、云、ハ、其、命、南、也、ト、云、也、其、去、考、也、ト、白、出、是
 委、在、話、中、ト、云、也、南、也、ト、云、也、其、道、道、掛、リ、ト、出
 何、河、作、也、ト、云、也、其、任、出、也、ト、云、也、其、也、ト、云、也、其
 官、ト、對、等、也、ト、云、也、其、権、力、也、ト、云、也、其、也、ト、云、也、其、也、ト、云、也

伊藤博文様了

分略每火款

Handwritten text in vertical columns, likely a list or index of items, written in cursive script.

(大隈重信侯傳編纂會)

Handwritten text in vertical columns, continuing the list or index from the previous page.

(大隈重信侯傳編纂會)

大隈電報 大隈電報

(大隈電報信條傳編纂會)

去月二十日佛國飛船航之正航在
 港占大使可冬悉研一着以与下探
 休神之之、港南港上揚長崎函了未
 日十吉以歸系之、官廳者諸公、以傳
 置より、電信之、由通是班牙葡萄瓦
 市、ある、に、新、多、り、近、口、降、系、の、海、沿、り、
 有、暗、真、節、際、一、り、片、降、信、以、り、函、の、
 心、り、也、也、

大隈先生 閣下

博文

博文抄文

